

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 11 月 07 日

所属部局・職	霊長類研究所・博士課程学生
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国、ルオー学術保護区、ワンバ村
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ボノボ父系型社会におけるメスの移籍メカニズムの解明
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 5 月 7 日 ~ 平成 28 年 11 月 4 日 (181 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
The research Center for Ecology and Forestry (CREF) in the DR Congo
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

私は、ボノボ父系社会におけるメスの移籍の至近メカニズムを解明するために研究を行っている。本研究は、コンゴ民主共和国ルオー学術保護区ワンバ村の野生ボノボ集団を対象に実施されている。今調査は、2014 年以降 5 度目のボノボ調査であり、博士研究に必要なデータを収集した。これまでのボノボの直接観察時間は 1,515hours であり、今調査期間では 804hours 観察した。



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

ワンバには日々観察されているボノボ集団が2つ(E1、Pe 集団)あり、本研究の主な対象個体は未産経メス 14 個体 (出自集団からの移出前 10 個体、移出後 4 個体) である。メスの移籍前後における行動パターンや社会関係の変化傾向を調査するために、ボノボの行動を通時的に観察している。また、ホルモン実験によって性成熟の発達段階とメスの移籍との関連性を明らかにするために、ボノボの尿サンプルを非侵襲的手法により収集している。

この報告書では、今調査期間に観察された興味深いいくつかの事例を報告する。

2016 年の 8 月に E1 と Pe 集団を含む集団間の出会いが生じ、Yume (6 歳 11 か月) と Pipi (推定 8 歳)、Debby (推定 7 歳) の 3 個体メスが出自集団から移出し、彼女らにとって見慣れない集団へ移入した。これらの事例は、チンパンジーメスが出自集団から移出する (11–13 歳) よりも早い年齢でボノボメスが移出する (6–9 歳) ことと矛盾しない。移出前段階においても、ボノボメスの性皮は十分に発達していたようには見えなかったが、E1 集団へ移入した後に Debby の性皮はやや大きくなり、オスとの交尾を頻繁に行うようになった。

また、この集団間の出会いにおいて、現在 E1 集団に所属する Ichiko (推定 9 歳) と Sachi (推定 8 歳) は、彼女らの出自集団である Pe 集団と再開し、その出自集団のオス個体と頻繁に交尾を行った。ボノボメスは出自集団のオスを認知して、近親交配を避けるわけではないのかもしれない。



Ichiko (9 years old*)



Sachi (8 years old*)

また、2013 年の 10 月に Pe 集団から E1 集団に移入した Puffy が、2016 年の 10 月に初出産へ至った (推定 13 歳)。一般に、チンパンジーとボノボメスは出産後にその集団へ定着し、2 次移籍は生じないため、Puffy は E1 集団に定着したと考えられる。Puffy の母親 Pao は Pe 集団に所属しており、3 世代にわたるボノボ個体の観察はワンバで初めての機会である。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



In Pregnant



After First Birth

また、Pe 集団の西側隣接集団である Pw 集団に所属する Chiyochiyo (推定 60-65 歳) が、Black-cheeked white-nosed monkey の遺体を 1 ヶ月あまり持ち運んだ事例が観察された。始めは遺体の肉も毛もしっかり付着していたが、やがて腐敗し白骨化した。写真は白骨化したサルの写真を持つ Chiyochiyo。何が彼女のこの行動を引き起こしたのか？



今調査期間において、6 か月間に渡り Wamba キャンプの運営を担った。病院や学校、市場の支援などを行うにあたり、Wamba の村人と話し合いをする多くの機会を得た。地元で根ざしたそのような活動は、フィールド調査を行う上で、現地の住民より研究や保護の理解を得るために重要なことある。これまでに Wamba では、多くの研究者が村人と良好な関係性を築いてきた、今後も村人との関係性の発展を継続していかなければならない。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



6. その他 (特記事項など)

コンゴ民主共和国の NGO 団体 Research Center for Ecology and Forestry (CREF) および科学研究省 Ministry of Scientific Research の職員に調査上のサポートをして頂きました。また、今調査の費用は、京都大学のリーディング大学院プログラム the Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science に支援して頂きました。今調査を実施するにあたり、多くの方に大変お世話になりました。誠にありがとうございました。